



▲昔懐かしい蒸気機関車に関する資料

**北** 北海道鉄道技術館は、JR苗穂工場の敷地内にある鉄道の資料館です。

装したもので、工場内で最も古い建物です。

JR苗穂工場は、一九〇九（明治四十二年）に「鉄道院北海道鉄道管理局札幌工場」として、設立されました。

それから一世紀近くにわたり、蒸気機関車から最新型の電車まで、鉄道車両の検査・修繕、さらには製造や改造を行ってきました。

北海道鉄道技術館は、一九一〇（明治四十三年）に建てられたレンガ造りの倉庫を改



鉄道に関する数多くの資料が展示されており、運転シミュレーター「振り子でトライ」をはじめ、実際に使用されていた運転席や列車のエンジン模型なども公開されています。

《北海道鉄道技術館》

住所北5条東13丁目（JR苗穂工場内）。

開館日毎月第2、第4土曜日。開館時間午後1時30分〜4時。見学自由。

入館料無料。

その他自動車で来館する場合は、事前に電話で申し込みが必要。

電話（丸）6624

**サ** ッポロビール博物館は、貴重な実物資料や模型による展示のほか、最新の映像技術などを駆使して、ビールの製造の歴史と文化を紹介する博物館です。



明治の初め、北海道がビールの原料となるホップと大麦の栽培に適していることに注目した開拓使は、札幌でビールの醸造を行うことを決定しました。

一八七六（明治九年）九月、ドイツでビール醸造の技術を学んだ中川清兵衛を主任技師に迎え、「開拓使麦酒醸造所（札幌麦酒会社の前身。現在のサッポロビール）が開業しました。サッポロビール博物館として使用されている建物は、一八九〇（明治二十三年）に札幌製糖会社の工場として建設されたものです。

一九〇五（明治三十八）年から製麦所として使用されていましたが、一九八七（昭和六十二年）年に博物館として再生されました。

北海道でビールづくりの情熱を傾けた人々や「札幌冷製麦酒」の誕生、ビールが飲食

店や家庭に急速に普及していた様子が紹介されています。

また、札幌工場で使用していたビール仕込み用の銅釜の実物が設置されており、製麦・仕込みから出荷までの工程が、分かりやすく展示されています。

《サッポロビール博物館》

住所北7条東9丁目。

入館時間午前9時〜午後5時（11、4月は午後4時まで）。見学自由。

入館料無料（ただし、試飲は有料）。休館日年末年始。

その他20名以上の団体は要連絡。車いすでの見学可能。

電話（丸）4368



▲開拓使のシンボル・北極星を掲げたサッポロビール博物館

**タマネギレシピ大募集！**

東区の特産品「タマネギ」を使った料理のオリジナルレシピ（作り方）を募集します。優秀作品は広報さっぽろ10月号（東区版）で紹介いたします。採用された方には東区特製「タッピー・ウィズユーカード」をプレゼント！ご自慢のレシピを教えてください。

【応募方法】

住所、氏名、電話番号、レシピを記入し、8月25日（木）（消印有効）までに、手紙またはファクスで応募。

【あて先・詳細】

東区役所総務企画課広聴係  
〒065-8612  
札幌市東区北11条東7丁目  
☎741-2400 / ☎742-4762